

# 日本気象学会関西支部 第28期第8回常任理事会議事録

日時:2009年12月14日(月) 16時00分～17時30分

場所:大阪合同庁舎第4号館 大阪管区気象台

出席者:瀬上、塩谷、向川、大澤、藤井、松本、諸岡(常任理事)、西、高橋、永山(幹事)、里田(全国理事)

## 議事

### 1 2009年度例会

12/11(金)に香川大学にて今年度第1回例会(四国地区例会)が開催された。例会での発表数は7題、これと特別講演があり、参加者が45名であった。平日開催のためか、前年開催の四国地区例会と比べて少なかった。詳細は四国理事から支部ニュースに投稿がある見込みである。

12/19(土)には岡山大学にて第2回例会(中国地区例会)が開催予定である。発表題数は18題あり、それと特別講演がある。盛況が予想される。また、12/20(日)には岡山大学主催の公開シンポジウム「持続可能な社会づくりへの教育を学校現場で推進するための学際的『知の統合』へ向けて(ESDと気候システム科学)」がある。当支部へ共催の依頼があり、これを承認した。

第3回例会(近畿地区例会)は2010/2/23(火)に神戸大学海事学部にて、海洋気象学会と共催で開催予定である。今回の諸事は海洋気象学会側が仕切って進められている。発表申し込み受付は、HPと「天気」へ掲載している。締め切りが先のため、発表題数は未定である。

### 2 2010年度秋季大会に向けて

2010年秋季大会は、京都テルサを開催場所として10/26～10/29の期間で正式予約をした。

部屋の使用を大まかに検討した。玄関ロビーで受付や宣伝活動などを行なえる。期間の前後に推測される研究会等については、未定な部分が多く、窓口を含めスムーズに進むよう確認と情報収集が必要である。託児所がテルサ内に設置されており、秋季大会へ子供連れ参加者は利用可能である。大会開催中は、初日の受付が大変混雑するので、これを念頭においておく。シンポジウム冊子掲載等の広告費としての協賛金は募るが、これをあらかじめ想定した運営は行なわない。

シンポジウムは、「大気圏のさまざまな境界面での相互作用」の題目で、塩谷・向川理事が人選を進めている。詳細決定は後だが、司会役を含め概略は進めておく。

大会公示は、来年6月である。スケジュールを詳しくつめておき、今年度中にできるところは確定させ、来年度早々に実行委員会を組織招集する。

懇親会の場所選定と会計収支について検討する必要がある。

### 3 日本気象学会奨励賞の推薦

藤井理事から、日本予報士会関西支部所属の村山氏を日本気象学会奨励賞へ当支部が推薦することへの推薦があった。村山氏は京都府立桃山高校教諭であり、生徒と一緒にに行った積乱雲の観測や「向島ニュータウンのヒートアイランドを探る～巨椋池干拓田が京都市を灼熱地獄から守る～」などの研究を行ない、これらによって気象学を志す学生のすそ野を広げることに貢献している。現在は気象学会員ではないが、奨励賞推薦に問題は無く、これを契機に気象学会入会を勧めたい。村山氏を日本気象学会本部へ奨励賞の推薦手続きを進めると共に、他に該当者がいないかどうか検討する。

### 4 気象学会第9回全国理事会報告

福岡での2009年秋季大会期間中の2009/11/25に行われた日本気象学会第35期第9回理事会に参加した里田全国理事から、以下の項目についての報告があった。①日中韓気象学会国際会議、②評議委員会への対応、③気象集誌論文賞・SOLA論文賞、④学術・総合計画・気象集誌編集の各委員会からの報告事項、⑤日本気象学会各支部からの報告である。①について、261名の参加があり、今後は拡大させたいとの意向がある。④の総合計画委員会からの報告で、論文のリジェクトによる裁判訴訟が起きている。来年1月に次回公判が予定されている。

### 5 その他

サイエンスカフェは、今年9月に開催した。今年度もう一回開催するかしないか講師人選を含め検討する。

次回常任理事会は、来年2月か3月くらい。